

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 3 1	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Ten-year prospective study of public health problems associated with early drinking. 早期飲酒に関連した公衆衛生問題についての 10 年間追跡研究	
執筆者	
Ellickson PL, Tucker JS, Klein DJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pediatrics. 2003 May;111(5 Pt 1):949-55.	
キーワード	
未成年飲酒 問題行動 追跡調査	
要 旨	
<p> 中学 1 年時、高校 3 年時、23 歳時の問題行動の頻度が早期飲酒者、早期飲酒経験者、非経験者間で異なるかどうかを比較検討した。1985 年にカリフォルニアおよびオレゴンの 30 箇所の学校で募集した中学 1 年の生徒を対象としてベースライン調査を行い(n=6,338)、その後 1990 年(高校 3 年時, n=4,265) および 1995 年(23 歳時, n=3,369)に再調査した。飲酒行動を独立変数として、各調査時点での学業不振、就職困難、薬物乱用、非行および暴力行為の有無をロジスティック回帰分析により検討した。各飲酒行動間の問題行動頻度の差異の有意性は、観察項目の重みと類似度を調整して検討した。結果、早期飲酒者および飲酒経験者は非飲酒者に比べて、中学 1 年時でも高校 3 年時でも学業不振、薬物乱用、非行行動を多く有していた。また、早期飲酒は青年期における就職困難、そのほかの薬物乱用、犯罪行為および暴力行為に関連していた。早期飲酒者は問題の多い生活習慣を身につけて成熟しがちであり、こうしたハイリスクの若者への介入は早期に開始すべきであるとともに、飲酒以外にも喫煙や不法薬物の使用といった彼らが抱え得る公衆衛生問題について提言すべきである。 </p>	